

### \* 大赤道儀室 (26 インチ望遠鏡ドーム) 脇のプラタナスが倒れた

アーカイブ室新聞番外号は 2009 年 11 月以来である。題材はいくらでもあったが筆が回らなかった。今回は 2011 年の台風 2 号崩れの低気圧による風で倒れた大きな木の報告である。昭和の初め、三鷹の東京天文台が活動を始めた頃には幼木であった木々も巨木に育ち、中には筆者と同じく老木になった木々もある。今回倒れた木もこの老木の仲間であろう。もはや台風ではなくなってさほどの強風が吹いたわけもないが太い幹がぽっきり (写真 2) と折れてドームの方に倒れていた (写真 1)。



写真 1

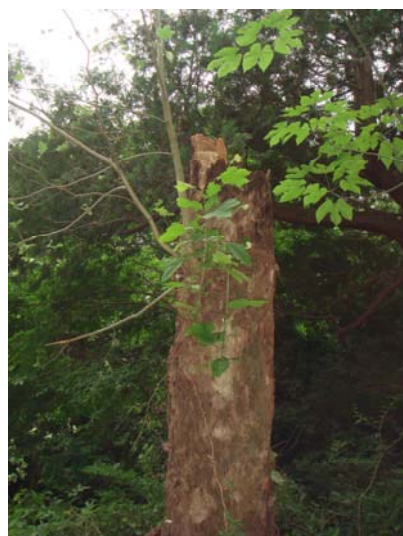


写真 2

現在は国立天文台の森を武蔵野の面影を残す自然ゆたかな森と評する方もいるが、天文台の森は昔の武蔵野の面影を残しているわけではない。写真 3 で見るように昭和初期の 26 吋望遠鏡ドームの周辺は大きな木など 1 本もない広大な畑地であった。その時代時代の施設課の人が構内整備を行い、道路

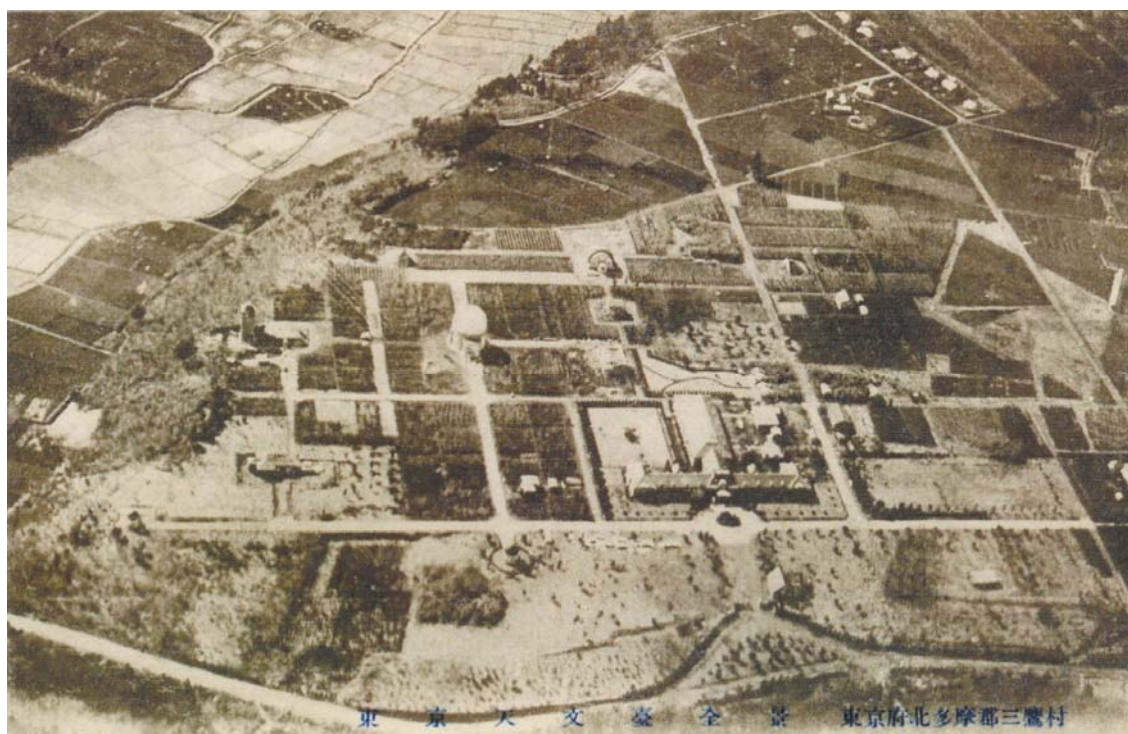


写真 3

沿いに木々を植え、あるところはポプラ並木に、桜並木にと姿を変えて行ったのである。ポプラ並木に至っては北海道大学のポプラ並木をしのぐ立派な並木であったが現在では見る影もなくなつた 3 本が残っているのみであり、桜並木はもはや老木で現在の台長が何とかせいと言い始めるほ

どになった。

昭和初期の東京天文台の航空写真を載せておこう（写真3）。



これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)